

中・大規模木造建築に特化した研究会

2×4中・大規模構造研究会

施設向け2×4のストライクゾーンを探る

中・大規模の研究会を発足

カナダ林産業審議会（COFI）SPFグループでは、ツーバイフォー工法による中・大規模木造建築の実務者向け設計に特化した研究会である「2×4中・大規模構造研究会」を発足。5月のスタートに先立って3月18日には発足説明会を開催。中大規模木造を手がけている設計者や報道関係者など午前・午後合わせて約100名が参加した。

研究会発足の動機

高齢者福祉施設の建設が全国的に



盛んであり、大都市圏では待機児童対策のための保育所の建設も進められており、平成27年度は介護保険事業の開始から6期目にあたる。一方で、昨今の急激な建設費高騰は事業者にとって深刻な課題であり、今後は面積の大きな低層の建築物を建てるのであれば、鉄筋コンクリート造よりも木造の方が安価な計画が可能であると言われている。特に高齢者福祉施設のように16㎡〜25㎡の一定の広さの部屋に区切られている建物の場合、枠組壁工法（ツーバイフォー工法）が適していると言われている。中大規模の建築物を木造で設計しようとする設計者も年々増加している。

こうした中、カナダ林産業審議会（COFI）SPFグループでは、設計者を対象とした設計実務者のための枠組壁工法（ツーバイフォー工法）における中・大規模木造建築の実務者向け設計に特化し、特に構造を理解し習得するための研究会を発足することになった。

カナダ林産業審議会・SPFグループ代表のケビン・J・ビューズ氏は発足の動機について次のように語る。「中大規模のツーバイフォーでは、設計・計画によってはコスト

アップにつながったり、工期が長引いたり、RCなどの工法を選んだ方が良いこともケースもあります。どんな設計・計画がツーバイフォーのストライクゾーンなのかということとをセミナーを通じて判断できるようにしてもらえると嬉しいですね」

講師陣の紹介

発足説明会では、最初に「木造中・大規模構造の設計施工のポイントと高齢者住宅のプランニング」と題して榎松本設計の代表取締役社長である松本照夫氏が講演。保育園は補助金が8分の7が出てもう2年になる。4億円あると5000万円建てられるので、建て替えは今しかないという機運にある。再来年の4月引き渡しまでかなり出る予定である。そのため事業計画では、何より先に補助金の期限に合わせることが絶対的な条件になる。

施設向けには合理的な使い方があ。例えばLVLを使いすぎたりしてコストがかかりすぎるとい設計を未然に防ぐためにも、コストパフォーマンスの良い大規模木造を目指していくためのポイントについて研究会で講義していく。大規模施設ではツー